

Contents

- 学部長メッセージ……………2～3
- 特集1 日本大学 学生FD CHAmmit 2017
活動紹介……………4～5
- 特集2 リサーチ・センター、リサーチ・グループ
施設、活動紹介……………6～7
- 2017年の就職状況と2018年の展望…8～9
- 就職活動体験記……………10～12
- 学科・系ニュース……………13～17
- 連載／卒業生インタビュー……………18～19
(株)エイト日本技術開発 執行役員東京支社長 稲垣喜弘氏
部長 高橋直哉氏／技師 家久冬萌さん
- 平成29年度表彰学生……………20～21
- CAMPUS NEWS……………22
- 平成30年度行事予定……………23



表紙：鳥人間コンテスト2017で本学部の滑空機 [Squalo] が飛び立つ様子。

学部長メッセージ

卒業生に贈るお祝いメッセージ

学部長
日本大学生産工学部
落合 実



平成29年度学部卒業生ならびに大学院修了生の皆さま卒業・修了誠におめでとうございます。ご家族の皆さまのお喜びもひとしおのことと心よりお慶び申し上げます。

現代そしてこれからの社会

皆さんが飛び立つ現代社会ではデジタル通信技術の進展により全地球的規模であらゆる情報が共有され、人々の生活や文化そして経済活動に変革がもたらされています。特に経済活動では産業構造が国と国との関係からグローバルな関係に遷移しています。また、我が国における少子高齢化や生産年齢人口の減少は今後、更に加速し、社会・経済の多方面、特に産業界に悪い影響をおよぼすことになります。

皆さんが活躍する生産・産業などの関連では国が「人材力強化」、「産業強化」を掲げ、「グローバルに対応できる人材力」、「世界一の技術力」、「ロボットによる産業革命」などを示し、そして「官民戦略プロジェクト」として「第4次産業革命の実現」をめざし、IoT・ビッグデータ・AI・ロボットなどをキーワードとした新たな市場創出を進めています。これらと連動して、科学技術基本計画では「超スマート社会」(Society 5.0)の実現を目指としています。このようなグローバル化を含めた多様化する

経済社会の変化に対応できる人材が求められることになります。

グローバル化というと「英語」「英会話」を発想しますがそれらはコミュニケーションの一手段です。グローバル化に対応できる人材とは、全世界・地球的な視野で社会、経済、技術、環境そして文化などについて考えることができ、加えてそれらを議論できる人と考えます。当然、自分が生活する地域をはじめとした日本の文化・歴史の理解が必要です。

キャンパスライフ

皆さんは学部あるいは大学院で過ごしたキャンパスライフは有意義だったでしょうか。初めて登校した日の開校式から卒業・修了まで、授業・演習・実習そしてゼミ・卒業研究などの学業、サークル活動、ボランティア活動等々、様々な経験をしたことでしょう。

皆さんが努力して学んだ生産工学部のカリキュラムは他大学・他学部には無い特徴あるものです。その特徴は経営・管理能力を備えた技術者を育成するという教育理念の下、生産実習や経営管理、技術者倫理などの生産工学系科目、そして実験や実習・演習科目が多く設置されていることです。これらは実学を重視したカリキュラムとして、課題に対して少人数のグループで取り組み、学生同士そして教員と学生のコミュニケーション等を通して社会人としての基礎力を養うものです。

一方、勉学に加えてサークル活動やボランティア活動などに熱心に取り組んだ人も多いと思います。そしてキャンパスでは多くの人々と交流し、一生付き合える友人と出会うことができたものと思います。

本学でキャンパスライフを過ごした皆さんには社会人基礎力が十分備わっていると確信していますので、本学を卒業、修了した誇りと自信を持って社会で羽ばたいてください。

生産工学部、日本大学

日本大学は明治22年(1889)に創立された日本法律

学校(現法学部)を前身とし、明治36年(1903)に日本大学に改称しています。そして初代司法大臣を務めた山田顕義伯爵を学祖と位置付け、「日本精神にもとづき道統をたつとび、自主創造の気風をやしなう」ことなどを目的・使命としています。教育理念である「自主創造」とは「自ら学ぶ」、「自ら考える」そして「自ら道をひらく」ことです。

生産工学部の前身は昭和27年(1952)に創設された工学部(現理工学部)工業経営学科です。その後、昭和40年(1965)に第一工学部(機械、土木、建築、工業化学、管理の5学科)、昭和41年(1966)に生産工学部(機械、電気、土木、建築、工業化学、管理、統計の7学科)と改称して、現在、学部9学科、大学院7専攻、学生数約6300名の規模に発展しています。創設以来、経営管理能力を備えた技術者の育成を教育理念とし、産業界に最も近い工学系の学部として産業界の発展に大きく貢献しています。卒業生の活躍で生産工学部が支えられています。

日本大学のスケールメリット：「絆」

卒業、修了後は、日本大学のスケールメリットを大いに活用してください。

日本大学は129年の歴史と約113万人の校友、そして生産工学部は66年の歴史と約8万人の校友がいます。

日本大学の校友は卒業した皆さんを新しい社会人・校友の仲間として歓迎していますので、今後は多くの校友とのつながり、「絆」をもって、協同・協働で社会に貢献していただきたいと存じます。

また、卒業生にとって生産工学部そして学科・研究室は母校ですので、いつでも訪ねて来てください。在学生に実社会の楽しさなどを語っていただければ幸いです。

日本大学の卒業生・修了生としての誇りと自信を持って世界に羽ばたき活躍されることを心より祈念して「卒業生に贈るメッセージ」といたします。

卒業そして修了おめでとうございます。

日本大学 学生FD CHAmmiT2017 が生産工学部で開催されました！

平成 29 年 12 月 17 日に日本大学の全学部が一堂に会する「学生 FD CHAmmiT2017」が生産工学部で開催されました。

「CHAmmiT（ちゃみっと）」とは、「Chat」と「Summit」の造語で、2013 年度より全学部の学生・教員・職員が集まって学生 FD *¹ や日本大学についての理解を深め、気楽な雰囲気の中で大学教育について語り合うイベントです。

過去 4 回は文理学部や法学部を会場としていましたが、記念すべき 5 回目は、私たちの生産工学部で開催され、過去最大参加者数を記録するとともに、参加者の多くの「気づき」により大成功を収めました。

本学部からも学生 20 名と教職員 8 名が参加し、さらに CHAmmiT の学生スタッフ及びファシリテーターとして田口尚輝（機械 4 年）、鈴木貴祐（電気 4 年）、八木友也（数情 2 年）、金江亮拓（電気 4 年）、田中夏海（土木 3 年）、CHAmmiT 全体の学生代表として坂本裕菜（応化 3 年）が活躍しました。

これまでの CHAmmiT では FD 活動を知ってもらう目的で内容が企画されていましたが、今回は FD 活動に直結する企画として、「ピカピカの一年生を創るための教職学改造計画」のテーマのもと、教員方に配布される「Teaching Guide *²」の CHAmmiT 版として、教職学で各々の立場の思いを込めた「Re：Teaching Guide」の作成に取り組みました。

当日は、37 号館を 1 階から 7 階まで利用し、10 時 30 分のオープニングから始まり、4 回のしゃべり場 *³ を経て、エンディング、懇親会と続き、18 時 00 分に幕を閉じました。4 回のしゃべり場は下記の流れで

進行しました。

- しゃべり場① 教員・職員・学生の各々で「初年次教育」の振り返りと課題発見
- しゃべり場② 教職学混合のグループで意見交換
- しゃべり場③ しゃべり場①のグループに戻り、Re：Teaching Guide を完成
- しゃべり場④ しゃべり場②のグループに戻り、完成した Re：Teaching Guide をお互いに発表

しゃべり場①～③によって、34 グループ分の三者三様な Re：Teaching Guide ができあがり、どれも各グループの個性が出ていてとても興味深いものとなっていました。特に、しゃべり場②と④では教職学混合のグループということで、自分と違う立場の人達の発想から新たな気づきが得られたのが大きかったようです。下記に Re：Teaching Guide で得られた意見を教員・職員・学生に分けてキャッチフレーズ的にまとめます。

- <教員> タテとの交流の充実化！学生主体の授業づくり！
- <職員> 教職学の連携！理念をしっかり共有して共に教育向上！
- <学生> やる気のある学生を尊重してほしい！
早い段階で“夢”と“目標”を持てる初年次教育に！

この他の意見も含めて学生スタッフでまとめ、実際の Teaching Guide に特設ページとして載せることになっていますので、自分たちの意見が直に大学教育に反映されるまたとない機会となることでしょう。

初めはみんな初心者で、何もわからずスタートするのが毎回の「CHAmmiT」のお決まりとなっています。しかし、ひとつひとつ丁寧に意見を絞り出して行くことで、大学教育に真剣に向き合うことができ、また違う立場の人と意見を共有することで、それぞれの中に「気づき」が生まれるのだと思います。スタッフとして参加した学生はもちろんのこと、参加者も「気づき」を得て、意識が変わったことだと思います。



今後も学生 FD の活動から大きな流れができるだろうと感じています。

- * 1：「FD（ファカルティー・ディベロップメント）」とは、学習・教育活動を改善するための組織的な取り組みです。
- * 2：「Teaching Guide」とは、教える側の教科書で、WEB で「日本大学 Teaching Guide」と検索いただくと、どなたでもご覧いただけます。
- * 3：「しゃべり場」とは、気楽な雰囲気のもと各々の立場でのびのびと討論する場です。

生産工学部でも学生 FD が活動中！

リーダーの田口尚輝（機械 4 年）とサブリーダーの坂本裕菜（応化 3 年）、稲邊奨太（土木 2 年）を中心とした学生スタッフ 20 名が、「学生 FD 活動推進プロジェ

クト」という名称で、学生の発見・発想・発信のもとに学生・教員・職員の三位一体での学習・教育の改善を目指し、平成 29 年度も数多くの活動を行いました（詳細は学部ホームページにて「学生 FD」で検索していただくとニュースとしてご覧いただけます）。

特に、「人間関係力醸成講座」や「ファシリテーター養成講座」では講師をお招きして、企画やプレゼンの手法、グループワークに必要な知識や技術など、実践を通して学ぶことができ、学生 FD スタッフを含む参加者のスキルが向上しました。

また、初めての試みとなる「桜泉祭での活動」では、日本大学や生産工学部での FD や学生 FD の取り組みを教室展示で紹介するとともに、キャンパス内で学生 FD や学習・教育に関するアンケートを実施して、学内だけでは得られない多くの情報や成果を得ました。

そして、第 3 回となる「しゃべり場」では、1 年生だけで実施されていたクォーター制が来年度から全学年で展開されることから、1 年生と 2 年生が互いの体験を共有し、来年度に向けて学習改善・教育改善の手掛かりを探りました。

今後は、活動の継続とともに、これまでに得られた成果や資源を生産工学部全体で共有し、生産工学部における学びの機会と環境の更なる活性化を目指していきます。



自動車工学、鉄道工学、宇宙・高空環境利用、次世代複 合材、バイオ学際研究による生産工学イノベーション リサーチ・センター, リサーチ・グループ ～施設, 活動紹介～

産業界に近い本学部の総合力を生かし、産学連携による先進的な研究拠点の形成を目指し「鉄道工学リサーチ・センター」「自動車工学リサーチ・センター」、「宇宙・高空環境利用リサーチ・グループ」、「次世代複合材リサーチ・グループ」、「バイオ学際研究による生産工学イノベーションリサーチ・グループ」を組織し、人類の幸福に寄与する研究開発に取り組んでいます。

鉄道工学リサーチ・センター

鉄道工学リサーチ・センター（センター長 綱島 均教授）は、まちづくりを含めた鉄道に関する研究拠点を整備し、学部を挙げてこれに取り組むことにより本学部の研究活性化を図るとともに、その研究成果を社会に還元することにより安全で快適な社会の構築に貢献することを目的として、2017年10月に設立されました。

鉄道工学リサーチ・センターのミッションとして、①日本大学における鉄道研究の活性化、②鉄道関連技術相談・共同研究の窓口、③鉄道を核とした地域のまちづくりへの貢献、④国内の地方、中小私鉄およびアジア地域の大学における鉄道技術教育を行っていく予定です。



鉄道工学 RC 写真（鉄道運転シミュレーター）

自動車工学リサーチ・センター

自動車工学リサーチ・センター（NU-CAR：センター長 野村浩司教授）は、将来の自動車工学及び高度道路交通システム全般に関する社会的ニーズに対応し、ものづくりを極め、人と環境にやさしい未来のクルマづくりを目指して2010年に設立されました。

自動車工学に関する先進創造研究の遂行、社会貢献、学内外の人材育成を理念として、自動車工学に関する基礎講習会、技術相談、講演会など産学連携事業を幅広く実践しています。

なお、これら産学連携事業は、賛助会員制度によりセンターの活動方針に賛同する賛助会員様の支援を受けて展開しています。http://nu-car.jp/



自動車工学 RC 写真（自動車運転シミュレーター）

研究・技術交流センター

生産工学研究所では、リサーチ・センターをはじめとする本学部における研究成果や豊かな人材（研究者情報）などの知的資源を有効に活用して、産業界、各種研究機関及び国・地方公共団体との研究・技術の交流を推進し、社会に貢献することを目的として研究技術・交流センターを設けています。ここでは、産学官連携の窓口として公的機関や企業等からの委託研究・共同研究・技術相談、外部機関等との研究交流支援、先端技術に関する研究会・講演会などを行っています。

☎ 047-474-2238 E-mail : cit.kouryu@nihon-u.ac.jp

Challenge for the Future

バイオ学際研究による生産工学イノベーションリサーチ・グループ

バイオ学際研究による生産工学イノベーション RG 写真
（バイオ系材料創製実験と組成分析）



バイオ学際研究による生産工学イノベーションリサーチ・グループ（代表者 野呂知加子教授）は、旧来のバイオ系のみ研究から、機械・電気・情報等と連携した医学・医療研究、土木・建築・化学等と連携した環境研究など、従来の枠組みを越えた研究を行うことで、新しいイノベーションの創出を目指しています。

バイオ系を一つの柱とした学際研究と連携研究により、生産工学の新たな枠組みを構築し、研究開発した製品の実用化およびスケールアップも視野に入れたバイオによるものづくりの研究開発を行っています。

次世代複合材リサーチ・グループ

次世代複合材リサーチ・グループ（代表者 平山紀夫教授）は、世界初の次世代複合材の開発を目的に、機械、土木/建築、医療といった異種産業分野を横断する先進複合材の研究を行っています。学部内連携だけではなく、学部間連携や幅広い産業界との産学連携を積極的に進めています。

具体的な研究テーマとしては、①次世代先進熱可塑性複合材の連続成形方法の開発、②自動車構造用先進複合材料の開発、③木材と長繊維複合材のハイブリッド構造体の開発、④先進複合材料と異種材料の接合方法の開発、⑤人体適合性熱可塑性複合材の開発等を行っています。



次世代複合材 RG 写真（押出成形機
フィラメントワインディング装置）

宇宙・高空環境利用リサーチ・グループ

宇宙・高空環境利用リサーチ・グループ（代表者 野村浩司教授）は、宇宙・高空環境利用の有用性を実験成果で発信し、宇宙・高空環境利用の促進とその利用価値を知る人材の育成に寄与することが目的です。

宇宙航空研究開発機構や宇宙航空産業などから共同/委託研究費を獲得し、さらに大規模な実験機会（航空機実験、バルーン実験、小型ロケット実験、国際宇宙ステーション実験など）の獲得を目指しています。



宇宙・高空環境利用 RG 写真（微小重力実験施設 落下塔）



1 2017年の就職状況

1. 2017年の内定状況

2017年度の採用に関するスケジュールは、2016年度と同様に3月1日に広報活動開始、6月1日に採用選考活動開始でした。就職活動のスケジュールはようやく落ち着きを見せ始めたと言えます。

経団連が行った2017年度新卒採用に関するアンケート調査結果（2017年11月27日付、経団連企業会員の553社が回答）によると、2018年4月入社対象の採用計画数に届かない企業の割合が前年度よりも5%増加し約30%になったことが報告されています。企業側からすると採用難の状況が一層進んだものと考えられます。一方、学生側にとっては売り手市場が続いており、就職を目指す学生にとっては有利な状況で就職活動が展開できたのではないかと思います。

文部科学省と厚生労働省が2017年11月に発表した全国の大卒理系の就職内定率は78.6%（2017年10月1日調査時点）でした。昨年度の同月（2016年10月1日調査時点）の全国の大卒理系の内定率よりも7.9ポイントの上昇となっています。生産工学部の2017年度の月別内定率は図1に示すように2017年12月1日時点で93%です。昨年の12月1日での生産工学部の内定率が90%なので内定率は若干増加しています。2017年

7月からの内定率（7月から10月までは正確には内々定率）の傾向を見ると、9学科中7学科が7月から9月の伸びが9月以降の伸びよりも大きくなっています。夏休み期間中に企業の内定や公務員の合格を受けた学生が多かったことが分かります。このような傾向はここ2年ほど見られなかった傾向です。今年が特に公務員の合格者数が多くなったということではないので、複数の内定をもらっていた学生が夏休み前後の時期に、正式に就職先を決めたことが考えられます。

2. 2017年の就職活動の特徴

2017年度の就職活動の特徴の一つに、短期間のインターンシップへの参加の増加が挙げられます。インターンシップは会社や官公庁・公社・団体などの仕事の内容を理解することを主として開催されます。大学1年生からの参加も可能となっているインターンシップも多く見られます。このような低学年を対象としたインターンシップは基本的には採用活動の一環ではなく、あくまで会社や官庁などの紹介・説明の機会として実施されています。しかし、大学3年生にとっては夏休み期間や採用活動が始まる直前の秋から冬にかけての期間におけるインターンシップは採用活動の一環として捉えて活動しているのが現状です。

このようなインターンシップの実施企業は3年前に比べると約2倍に増加したとの報告（「2018年卒の就職戦線を検証する」キャリアタス2017年4月より引用）もあり、2018年2月にインターンシップを実施する予定の企業は上場企業で76.4%となっています（「2018年卒マイナビ企業新卒内定状況調査」マイナビ2017年11月より引用、以下「マイナビ」）。インターンシップ

の実施が最も多い月は2月であり、その次に8月となっています。これらの月は大学生の授業が無い月であり、自由な時間を確保することのできる時期であることが理由の一つと考えられます。また、2月のインターンシップは3月からの広報活動開始時期を念頭に置いた、まさに採用活動の一環として捉えられるインターンシップであると考えられます。このようなインターンシップの実施期間は1日が最も多く全体の約70%に達しています（マイナビ）。

インターンシップの本来の意味は「実務能力の育成や職業選択の準備のために、学生が一定期間、企業等で仕事を体験する制度」（広辞苑より抜粋）です。この意味からすると少なくともある一定の期間は仕事を体験することとなります。最近多くなっている1dayインターンシップは名前こそインターンシップと書かれていますが、内容を調べてみるとその実態は企業説明会や現場見学会、あるいはワークショップであるものがほとんどです。したがって、1dayインターンシップ、もしくは2～3日の短期のインターンシップは企業説明会等と考えて参加した方が良いでしょう。そして、企業説明会である以上、当然採用活動の一環なので3年生は就職活動として、あるいは採用選考として緊張感を持って積極的な姿勢で参加していただきたいです。1dayインターンシップのメリットは短い期間に多くの企業の情報を得ることができる点にあります。しかし、仕事の体験をしたいと考えている場合は、長期間のインターンシップを行っている会社や官公庁・公社・団体を選ぶことが重要です。特に1・2年生がインターンシップを行う場合は、進路選択の一助とするためにも長期間のインターンシップに参加する方が良いでしょう。なお、生産工学部では3年生の8・9月を中心に2週間から1か月の期間を費やして生産実習を実施しています。生産実習は必修科目であり40年以上にわたり実施しています。この生産実習はまさに就業体験であり、本来のインターンシップです。本学の学生は全員、生産実習を受講して希望職種の就業

体験ができるため、卒業後も就職先への順応力が高く、離職率の低い点が社会から高い評価を受けています。

2 2018年の展望と今後の取り組み

2018年度（2019年3月卒）の採用活動に関するスケジュールは2017年度と同様に実施されます。また、2018年度の求人状況も、各企業の採用担当者の話から考えると2017年度と同様に好調であると考えられます。2018年度以降の景気の状態を予測することは困難ですが、技術者が少ない状況であることには変わりはありません。

さて、生産工学部では様々な就職支援を実施しています。2017年度から始めた新しい試みとして、株式会社マイナビ様の協力のもと、東邦大学と日本大学薬学部に呼びかけて模擬グループディスカッションを始めました。この講座は1年生から参加可能です。2回実施したこの講座の実施後のアンケートでは「本講座に参加して自分の欠点が良く分かった」や「グループディスカッションのコツがつかめた」、「他大学・他学部の学生との交流ができて良かった」等、学生にとって良い刺激となったようです。課題としてはディスカッション後のフィードバックの時間が若干少なかったことや、参加者数が30～37名と少なかった点が挙げられます。これらについては今後、この対策講座のテーマを絞り込んだり、周知を徹底したりするなどの対策を講じる予定です。また、2018年度以降、公務員試験対策も充実を図る予定です。

2020年のオリンピック以降は景気が悪くなるという話も聞かれる中、安定した職場である公務員への就職も重要な選択肢の一つとなります。工学系の場合多くの学生は技術職を受験することになります。技術職は事務系とは異なり採用試験の倍率が低いことが特徴ではないでしょうか。国家公務員や地方上級公務員など様々な公務員への道が用意されています。早めの対策が必要なことは間違いありませんが、生産工学部では公務員への就職支援も充実させていく予定です。

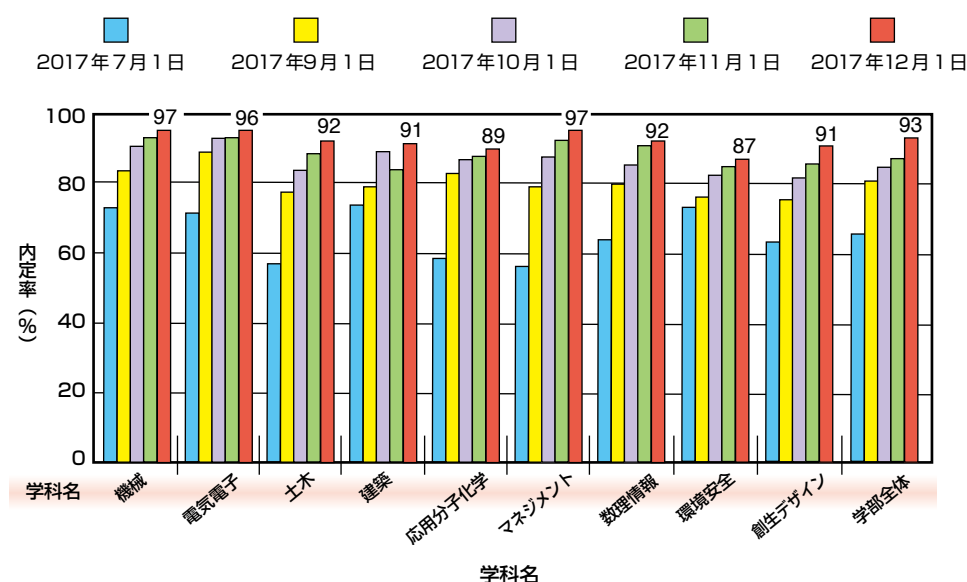


図1 各学科の月別内定率（学部生のみ）

機 械 工 学 科



企業によって見せる自分を変える

4 年 近 亮佑

(株式会社ジェイテクト 内定)

企業が欲しがっている人材像を見極め、自分の引き出しからそれを取り出す。私は、就職活動において、このような姿勢が重要だと考えています。どんな優れた強みも、企業が必要ない強みを押し売りしては逆効果です。ポイントは、企業が欲しい人材と自分がどれだけフィットしているかです。よって私が就活を勝ち抜いた特定の自分の強みはありません。会社によって求める人材が異なり、自分が見せる強みも企業によって変わるからです。つまり、私達の強みは固定的ではなく、受ける会社によって全部違うということです。

しかし、私が言いたいことは、企業が欲しがる人に自分を偽るということではありません。自分の性格や過去の経験から、その企業に合う自分の一面を見せ、理解してもらうということです。自分の過去の経験といっても、海外留学やボランティアなどの経験は必須ではありません。重要なのは、些細な出来事も貴重な経験と捉え、誰も気づかないような新しい発見や学びを得られてきたことを再確認することです。例えば、ある会社の職場では「PDCA」を特に意識しているという話を聞いたとします。そのような場合、自分の過去の経験の中で「PDCA」を意識して行動した経験がないか思い出してください。無意識のうちにやっていることも十分考えられます。講義中、テスト勉強中、インターンシップ中、色々あるはずですよ。

では、その企業が欲しがる人材像はどのように調べるのか？これはネットや就活サイトを参考にしてはいけません。会社で働いている人に直接聞いてください。ネットの情報は誰もが見ており、周りと差別化できません。しかし、会社に行って直接聞いた話は、その話を聞いた人しか知りません。また、ネット等で得られる情報よりもずっと説得力があります。

電 気 電 子 工 学 科



幅広い視野で就職活動

4 年 小倉 佑斗

(東ソー株式会社 内定)

私は、メーカーを中心に企業研究をしていました。そこで「化学と電気がコラボする」という言葉を目にし、化学業界など電気以外の分野にも活躍できる場所があることを知り興味を持ったので志望しました。実際に企業に足を運び見学やお話を聞くことによって、よりやりたい仕事が明確になりました。

3年次の生産実習の頃から就職活動について関心を持つようになりました。実際に職業を体験できたことは就職活動に大いに役に立ったと思います。10月頃からまず自己分析を中心にじっくり時間をかけ、1月頃から企業研究をしていきました。

また、3月からは学部主催の企業説明会や、企業に足を運び様々な企業のお話を聞きに行きました。その合間に、適性検査や時事用語の勉強をしました。

私は、学科推薦で受けたので、5月初旬にエントリーシート、適正検査を行いました。その後技術面接（研究内容のプレゼン）、最終面接を行い5月末に内々定を頂きました。

就職活動中は、「明るく元気なこと」「嘘をつかないこと」を心掛けていました。第一印象を大切にすることで、一緒に働きたいと思ってもらえるようになると思います。また、面接で分からないことは分からないと正直に言うのも大切なことです。分からなかったことはメモしておき次の面接までに対策していました。

就職活動で苦労したことは、やりたい仕事を探すことです。狭い視野で就職活動するのではなく、様々な情報を集めて幅広い視野で就職活動をして下さい。自分のやりたい仕事ができるように就職活動を頑張って下さい。

土 木 工 学 科



仲間と協力し、主体的に行動する力

4 年 鈴木 真登

(大成建設株式会社 内定)

私の強みは、部活動を通じて培った「仲間と協力し、主体的に行動する力」です。大学では、部員が50名程の硬式テニス部に所属し、1年から3年まで主にコート使用や合宿、大会関連の書類の作成管理の業務を行っていました。10月に行われる「関東理工科のリーグ戦で昇格すること」を目標に、週二回の全体練習を行っていました。

当初は、全体がまとまっておらず、練習ですら上手く行かない時もありました。そこで、自らが主体的となって同期とミーティングを行い、状況の把握と分析、改善策を考えました。

まず、課題となっていたのが、執行部が自分の役割しか把握しておらず、共有できていなかったことです。そこでノートにそれぞれの役割をまとめ共有することで解決を図りました。次に、部員がそれぞれのレベル毎のコートに分かれ練習していることが、全体のまとまりの弱さに繋がっていると考え、練習後のグループミーティングを徹底し、一人一人の意見を聞くことにしました。その結果、部内の中で話したことがない人が存在し、部員間のコミュニケーションが限定されていることもわかりました。この問題に対し、毎回の練習でメンバーの入れ替えを増やし、上位層の人がアドバイスをするなどのコミュニケーションを積極的に取ることで解決を図りました。

以上の取組みの結果、目標としていたリーグ戦では2年連続での昇格を実現することができました。この経験から仲間と協力し問題を解決すること、物事に対し主体的に行動することの重要性を学び、身に付けることができたと思います。

この強みを活かし、困難に対し積極的にチャレンジし、仲間の力を集結させ、どんな困難でも乗り越えられるような土木エンジニアを目指します。

建 築 工 学 科



周りより一歩先に

4 年 林 拓弥

(株式会社大林組)

私が就職活動の中で大切にすることは、「早くに行動する」ことです。就職活動には、ヨーイドンの掛け声はなく、だれがいつスタートしたのかもわかりません。逆に言えば、自分自身がいつスタートをしてもいいのです。そんな中で、私は2年生の冬休み頃から先輩方や社会人の方から様々な業種の人から話を聞き始めました。それぞれの業種の楽しい所や苦しい所、どのような目標があるのかを聞き、3年生になる頃には自分がやりたい職種を絞っていました。そこからは、会社説明会やインターンシップ、面接対策などを行いました。

の中で、早くにした方がいいものが2つあります。

一つ目が、自分のやりたい職種を決めることです。職種を決めることで、企業研究や面接対策を始めることができるからです。そして、職種を決めるためには、先輩や社会人の方、会社説明会、インターンシップに行くべきです。自分の知らなかった職種、それぞれの職種の良い所や悪い所、どんなことができるのか等を知ることができ、自分はどんなことがしたくて、何が自分に向いているのかを知ることができました。

二つ目は、面接対策です。突然面接をして完璧に受け答えができる人はいません。なので、質問や面接形式などを調べ、面接の練習を何度も繰り返し行いました。また、企業によって多種多様な特徴があるので、時間をかけて調べ上げ、面接の際に自分が本当にその企業に行きたいことを示すことができました。

就職活動は、長い人生の中で大きな分岐点です。あの企業の方が良かったかも、あの業種の方が自分には合っていたかも等、就職してから後悔しないように、できるだけ早く行動をし、準備を万全にして下さい。

応 用 分 子 化 学 科



自分がやりたいことを追及する

4 年 竝木 花菜

(鳥居居品株式会社 内定)

就職活動において、自分の強みを知ることは大切だと思います。エントリーシートや面接では必ずと言っていいほど自己PRをする機会があります。そこで、自分の長所や短所について深く知り、長所をどんな風に仕事に活かせるか考えることが大切です。

私の就活における強みは、自分がやりたいことを追及し、企業に対する熱意を伝えられたことだと考えています。

私は、人に誇れるような功績を持っているわけでもなければ、何か秀でた特技を持っているわけでもありません。なので、せ

めてその企業で働きたいという熱意を伝えようと思いました。

私は、製薬企業の営業職であるMRに絞って就職活動を行っており、面接に向けて、なぜ他の営業職ではなくMRなのか、なぜその企業なのかを考えるのはもちろん、企業が扱っている医薬品にはどのようなものがあるのか、どんな疾患領域を得意としているのか、ライバル企業と比べてどの点で魅力を感じているのかなど、とにかく調べていて疑問に思ったこと、考えたこと全てを書き出しました。また、企業のホームページで公開されている株主向けの決算書や中間報告書などにも目を通し、逆質問対策をしました。面接の時間は限られているので、それらすべてを面接官に伝えることは難しかったですが、そういった努力があったからこそ、自分が行きたい企業から内定を頂けたのだと思います。

就職活動は、不安も多く様々な負担がかかると思いますが、将来を左右する大切なことです。

自分を信じて、頑張ってください。

マ ネ ジ メ ン ト 工 学 科



大切なのは、人も仕事も好きになること

4 年 溝口 明恵

(三菱重工株式会社 内定)

始めはIT企業を中心に就職活動していましたが、インターンシップがきっかけとなり、メーカーの品質保証部を目指すことにしました。

就職活動において心掛けていたことは「積極的にコミュニケーションを交わす」ということでした。インターンシップでお世話になった際には、製品のこと、会社のこと、品質保証のこと等気になった点はその場で質問することで、疑問点を失くし、業界や職種に対する理解を深めることができました。また就職活動中に知り合った学生にも積極的に声をかけることで、同じ境遇の仲間

と切磋琢磨したり、お互いに情報を共有したり、辛い時は相談したりする相手ができ、就職活動に対するモチベーションを保つことができました。

そしてもう1つ大切なのは「やりたい仕事を好きになること」です。“自分には営業が向いているから営業を目指す”や“SEが求められているからSEを目指す”等、社会のニーズや自分の特性に合った仕事に就くことも大切ではありますが、その仕事を一生続けることを考えてみました。いくら得意でも、いくら求められていても、全く興味のない仕事を続けるのは難しいと思います。

就職活動は終わりではなく始まりです。その仕事を行っている自分を想像して、本当に続けられるのか、今一度考えてから就職活動に取り組んでみてください。そして、生涯続けられる仕事を見つけたいと思います。

誰に対しても臆さず話しかけることで自分のモチベーションを保ち、業界や職種に対する理解を深めることによって本当に自分に合った仕事を見つけることで、納得のいく就職活動を実現することができたのだと思います

数 理 情 報 工 学 科



自分の面白さを追求する

4 年 新井 恒陽
(株式会社博報堂アイ・スタジオ 内定)

「面白いと思うことだけやる。」これは大学生活における自分の Motto です。

3 年になってから就職を意識し始めたので、なんとなくエンジニアになるんだろうな程度しか考えていなかったです。まずは、好きなデジタル系コンテンツの制作ができそうな会社を探すことにしました。先輩から 3 年のサマーインターンはいっぱい行くべきということを聞いて、5 社くらいエントリーしました。しかし、全て落ちてしまいました。ここでやっと現実を受け止めることになります。

そこから自分を見つめ直して、他の学生と比較して自分

に足りないこと、本当にやりたいことなど、時間をかけて考え直しました。優秀になろうというか、「なんだか面白い人」を目指し、長期インターンや、1day インターン、勉強会などに参加し、同じ業界を志す学生と交流を行っていました。

最先端のクリエイティブな仕事をしたいと思っていたので、研究活動や制作のポートフォリオを充実させるようにまとめ上げました。今思えば、実績を評価してもらうだけでなく、自信と余裕を持って選考に挑める資源を作れたことが良い結果に繋がったと考えられます。最終的に、やりたいことの中心にある企業から運良く内定を貰えることができました。

就職活動の形も人それぞれあると思います。自分は数社に絞って、ダメだったら進学しようと、良い意味でゆとりを持って挑んでいました。

共通して大事だと思うことは、内定をたくさん貰うことでも、有名だと思う会社に就職をすることでもなく、周りに流されずに自分の納得の行く道に進むことだと思います。そのためには、自分のタイミングでスタートを切り、今やれることから自分の魅力・面白さを積み上げていくことが何よりだと思います。

環 境 安 全 工 学 科



「自分のカラー」で内定を勝ち取る！

4 年 御子柴 直希
(ダイハツ工業株式会社 内定)

私は、自動車、電子機器などのメーカーを中心に就職活動をしていましたが、卒業研究のテーマである自動車のエンジンをきっかけに自動車業界を目指すことにしました。

就職活動において、最も大切にしていたことは「自分のカラーを出すこと」、「自分のカラーを生かすための情報」です。一つの企業に対して何十人、何百人の就活生がエントリーしている中で、いかに自分の印象を残すことが出来るかを常に考えていました。このために他の人が経験したことない苦労や努力のエピソードをどのように語れるようにするか対策を行いました。

部活の遠征で毎年 1 か月ほど海外に行く機会があり、その際にはホテルに泊まるのではなく現地の人の家に泊めてもらい国際コミュニケーションの勉強を行い、さらに現地のエンジニアと友達になることができました。ここで日本の自動車に対しての印象など色々と話を聞くことができ普通の学生が経験できないようなことを自分のアピールポイントの一つにすることが出来ました。さらに自分のカラーを生かすために色々と情報を手に入れることに関しても心掛けました。大手企業から内定を頂いていた先輩と話をし、エントリーシート対策や面接でのノウハウなどを細かく就活ノートにまとめました。また、就職活動中も多くの教職員や友人と話をすることで、面接のイメージトレーニングや試験内容など様々な情報を共有することができ、ヒントが得られることもありました。

「自分のカラーを出すこと」、「自分のカラーを生かすための情報」を就職活動中における自分の強みとして挑み続けたことが内定を勝ち取る要因になったと思います。

就職活動は、人生のターニングポイントの一つだと思います。悔いの残らないよう全力で頑張ってください。

創 生 デ ザ イ ン 学 科



幅広いモノづくりの経験

4 年 鹿海 有紀子
(株式会社メガハウス 内定)

私は子供のころからモノづくりと玩具が大好きでした。それで将来は玩具メーカーに就きたいと思い、就職活動を行っていたのですが、自分

をアピールすることは、あまり得意ではありませんでした。しかし、そんな就職活動の中でも、他の人にはない、自分だけのものを見つけることができました。それは学生時代に培った「モノづくりの経験」です。その経験を 1 つの本にまとめて、面接で発表しました。様々なジャンルのモノづくりに触れてきたおかげで、幅広く考えられることを上手く伝えることができたと思います。

実は、大学 2 年生の頃から玩具業界に興味があり、業界について調べていました。しかし、その業界一筋で進んでしまっていたのかという、不安もありました。そこで、今まで経験したことがないことに挑戦して、視野を広げてみようと思ったのです。私の「モノづくりの経験」では、自動車メーカーのワークショップや企業が主催のデザインセミナーなどに積極的に参加しました。また、インターン先は印刷業界を選んだり、雑貨商品のコンテストにも応募したりしました。その結果、自然とモノづくりの技術や知識が身に付き、成果物も増え、いろんな観点から物事を考えられるようになったのです。

これらのモノづくりの経験が、就職活動中のアピールにつながり、面接官からも興味を持って頂けることが多かったようです。また、培った技術を駆使して、自主的に 3D プリンターでロボットの玩具なども作って持っていく、そのまま内定に繋がることがありました。

学生は自由にのびのびと使える時間がたくさんあります。限られた時間の中で、その時にしかできない事を多く経験して、視野を広げてみてください。その経験がきっと、仕事や人生にも繋がっていくと思います。

学 科 ・ 系 ニ ュ ー ス

機 械 工 学 科

学会等で多くの学生が受賞

今年も多くの学生たちが学会等で研究成果を発表し、高く評価されました。第 50 回生産工学部学術講演会においても 13 名の学生が優秀学生発表賞を受賞しました。また、風力発電コンペ WINCOM2017 では昨年に引き続き、4 年生のチームが最大発電量を記録して優秀賞を受賞しました。受賞記録の一部を表にしてお紹介します。また、高橋教授が昨年度の海外研修での成果をまとめた論文が Zwick Science Award を受賞されたのははじめ、野村教授が国際宇宙ステーション燃焼実験装置の開発で平成 29 年度日本燃焼学会技術賞、野村教授、氏家特任教授、菅沼助手と OB の村越さんの共著が平成 29 年度日本燃焼学会論文賞、綱島教授が日本機械学会交通・物流部門功績賞を受賞されました。



第 12 回日本磁気科学会ポスター賞受賞の片山君 (左)

学科推奨サークルの活躍

機械工学科では、津田沼航空研究会、フォーミュラ JSAE、CIT- 宇宙技術研究会といった技術系サークルを応援しています。今年は津田沼航空研究会が「鳥人間コンテスト 2017」滑空機部門で、学生記録を更新しての初優勝を飾り、大きな成果を残しました。また、フォーミュラ JSAE も昨年に続き完走を果たし、総合成績 54 位と健闘、日本自動車工業会会長賞を受賞しました。今後も学生たちの素晴らしい活躍を応援したいと思います。

その他、機械工学科のホームページ (<http://www.me.cit.nihon-u.ac.jp/>) にて様々なニュースが紹介されていますので、ご興味のある方はそちらもご覧ください。

卒業後、修了後の益々のご活躍を機械工学科教職員一同、お祈り申し上げます。

学生／チーム名	学年	受賞名
金豊	M1	日本マイクログラフィティ応用学会第 29 回学術講演会・毛利ポスター賞敢闘賞
小田嶋舞	M2	平成 29 年度鉄道サイバネティクス協議会学生優秀論文賞
片山大輔	M2	第 12 回日本磁気科学会年会・学生ポスター賞
富田晋	B2	第 62 回 FRB 総合講演会・優秀ポスター賞
林田悠一	M1	第 24 回鉄道技術・政策連合シンポジウム・優秀論文発表賞
津田沼航空研究会 (代表) 佐藤光	B3	第 40 回鳥人間コンテスト滑空機部門優勝
フォーミュラ JSAE (代表) 対野杏星	B3	日本自動車工業会会長賞
Schwert-2017	B4	風力発電コンペ WINCOM2017・優秀賞

電 気 電 子 工 学 科

電気電子工学専攻 1 年生の伊藤ヒカル君が千葉県知事賞を受賞

千葉県私立学校知事表彰に基づくもので、千葉県下の私立大学等に在学中に学業、芸術、スポーツ等で優秀な成績を修め、かつ学生として品位を保ち他の者の模範となった者に対して知事から表彰を受けるものです。社会のインフラ・設備関連に興味を持ち、将来を見据えて学部在学中はもとより現在に至っても勉学に励み、優秀な学業成績を修め受賞したものです。



電気電子工学専攻 1 年生の田中智之君が電気学会東京支部第 8 回学生研究発表会で優秀発表賞を受賞

東京工業大学 (東京都目黒区) で開催された電気学会東京支部主催の「学生研究発表会」で、講演者相互および座長の投票により選出されるものです。

この研究会は今年度で第 8 回を迎え、約 130 件の研究発表の中から 20 名が選出され、日頃の努力の積み重ねにより研究成果が実り優秀発表賞の受賞に繋がりました。

研究題目は「バナジウムレドックスフロー電池の劣化原因の調査」です。



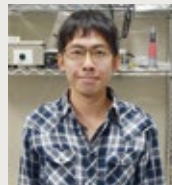
電気電子工学専攻 1 年生の根本彪瑠君と山崎慎太郎君が第 1 級無線技術士に合格

電気電子工学科 4 年生の小林紀輝君が第三種電気主任技術者に合格

電気主任技術者は、発電所や変電所、工場、ビルなどの受電設備や配線などの電気設備の保安監督者として置くことが法律で義務づけられている技術責任者です。そのため、電気主任技術者は社会的評価が非常に高い資格です。

電気主任技術者は取り扱うことができる電圧によって第一種から第三種までの 3 種類の資格があります。電圧 50,000V 以下の電気設備は数多くあり多くの活躍の場があります。第三種電気主任技術者の合格率は約 10% となっており、難関資格であるので、資格取得に多くの努力を必要とします。

更に、電気電子工学専攻 1 年生の鹿志村亮介君と博士後期課程 3 年生の本宮寛憲君が第 50 回 (平成 29 年度) 日本大学生産工学部学術講演会で優秀学生発表賞を受賞しました。今年度も多数の学生が日頃の努力の結果を実らせています。



学 科・系 ニ ュ ー ス

土木工学科

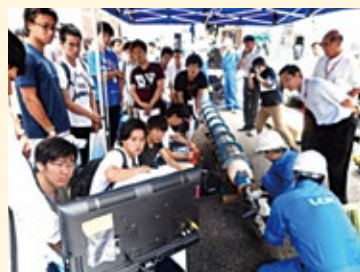
外部団体と連携して下水道管路メンテナンスの講義を実施

土木工学科では、産学連携による実践力を備えた学生の育成を教育目標のひとつにあげています。一方で、インフラ整備は建設からメンテナンスの時代にシフトしておりメンテナンスがわかる技術者の需要が高まっています。しかし、メンテナンスの需要に対する大学側の対応は緒に就いたばかりです。そこで、社会のニーズに合った土木技術者を育成するために土木工学科では、メンテナンスに関係する外部団体と連携して下水道管路メンテナンスの講義を本年度より実施しました。

昨年7月13日と14日には構内においてメンテナンスの有力な工法のひとつである更生工法のデモ施工を行いました。当日はお天気にも恵まれ普段の講義よりも受講生が多かったように思います。



デモ施工全景



講義風景

パラグアイ、インド、ベトナムなど、海外でのインターンシップを始めました

土木工学科では、実践力を備えた学生の育成とともにエンジニアが世界を舞台に活躍する時代に英語力はもちろん世界のものづくりの現場で通用する視野と思考とたくましさを身に着けた学生を育てることを教育目標にしています。

英語力を磨くためのGlo-BEコースや海外研修、海外建設情報などの講義を通じて国際的な学生の育成に努めています。本年度より海外でのインターンシップを始めました。

パラグアイ(8/1～8/31)に2名、インド(8/1～8/31)に1名、ベトナム(8/28～9/6)に1名の学生を送り出しています。外国人技術者との交流や海外の建設現場の迫力を実感したことは実習生にとって貴重な経験になったことと思います。



ベトナム人技術者と懇談する実習生

建築工学科

「シェルターインターナショナル学生設計競技2017」で本学の学生チームが優秀賞を受賞

シェルターインターナショナル学生設計競技2017(課題「現代におけるコモズの再構築」)で、本学M2の日野一貴君、坪井里穂さん、山崎悠祐君、4年生の小室昂久君(全て岩田研)のチーム作品『藁ノ廟-straw cemetery-』が応募総数176作品(国内70、海外106)から優秀賞に選ばれました。1次審査で最終審査へ進む入選5作品に選出され、東京国際フォーラムでの公開プレゼンに臨みましたが、最終2作品による決選投票の末、1票差の2位になりました。

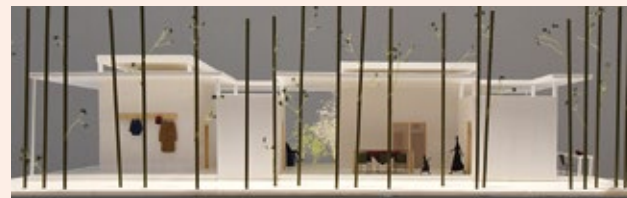
土地との縁が希薄化して変わりつつある日本の墓文化に注目し、日本古来の死生観を背景に、「生と死の世界を繋ぐ吊り空間=廟」をコモズと捉え、これを維持する共同体のあり方と共に提案しており、生を支える主食の副産物である藁を使って時とともに風化していく情景を描きました。



第17回住宅課題賞において本学学生が審査員賞を受賞

第17回住宅課題賞2017入選作品展(東京建築士会主催)が、11月25日(土)に竹中工務店東京本店のギャラリーエークウッドにて開催されました。これは、東京圏に位置する大学の建築系学科等で行われている設計製図授業の中から、住宅課題における優秀作品を各校1作品ずつ集めた展示会です。この中から特に優れた作品を公開審査により「優秀賞」として顕彰しています。

本年は植田実氏をはじめとする5名の審査員(小西泰孝氏、中川エリカ氏、藤村龍至氏、前田圭介氏)によって、参加37大学48学科、48点の作品の中から3点の「優秀賞」、5点の「審査員賞」が選出され、居住空間デザインコース2年(当時)の堀内那央さんの「間の家」が審査員賞を受賞しました。



学 科・系 ニ ュ ー ス

応用分子化学科

第5回水科学ならびに水資源に関する国際会議(ISASWR'17)において小柴君が優秀ポスター賞を受賞

平成29年8月に開催された標記の国際会議において、博士前期課程2年の小柴侑輔君が優秀ポスター賞を受賞しました。

題目: Dielectric properties for 2-propanol+water liquid mixtures at high temperature up to 423.2 K

発表者: 小柴侑輔、保科貴亮、辻智也、日秋俊彦

日本分析化学会第66年会で長嶋君の発表が「展望とトピックス」に選出

平成29年9月に開催された標記の学会において、博士前期課程1年生の長嶋恭介君の発表が、「展望とトピックス」に選出されました。また、長嶋君が研究活動を行なっている朝本紘充専任講師と南澤宏明教授の研究グループの研究成果として2017年10月16日付日経産業新聞(「アルツハイマー病の原因物質 日大、大きく分けて解析」)でも取り上げられました。

題目: PTFE チューブを分離場とするアミロイド線維の分離分析
発表者: 長嶋恭介、朝本紘充、中釜達朗、齊藤和恵、南澤宏明

第4回海水・生活・化学連携シンポジウムにおいて、徐康健君が優秀ポスター賞を受賞

2017年10月に開催されたシンポジウムにおいて、博士前期

課程2年の徐康健君が優秀ポスター賞を受賞しました。

題目: O₃ ファインバブルを用いた水質浄化技術の開発 - ビスフェノールAの分解に対する気泡の微細化効果

発表者: 徐康健、和田善成、日秋俊彦、松本真和

工業化学科・応用分子化学科ホームカミングディを11月に開催

応用分子化学科では、今後も卒業生との繋がりを大切にしたいと考えています。桜泉祭にあわせて毎年開催される「母校をたずねる会」や5年毎に学科で企画(予定)のホームカミングディの機会に、是非、遊びに来てください!



第2回ホームカミングディの様子

マネジメント工学科

海外の留学生との交流

毎年、恒例となっていますが今年度も7月10日から16日まで、日本大学生産工学部と中国科技大学管理學院との交流プログラムが開催されました。

中国科技大学管理學院から学生が来日して、マネジメント工学科の講義や実習などを聴講し、また千葉県内の工場見学をしました。

従来の欧米との研究交流に加え、当学科にはタイや中国、台湾などからグローバルな人材が集まっており、国内や国際会議を含めてグローバルに研究活動をしています。

桜泉祭(学園祭)

では、毎年恒例となりましたがOBの生産工学部校友会マネジメント部会から御神輿の製作・修理代等のご支援を受けており、学科の御神輿を出しました。今年度は3年生が神輿の学生リーダーを務め、1～3年生で神輿改修(制作)を進めました。担ぎ手には4年生ピアサポーターも加わり、全学年で学年を越えた交流の場となりました。また女子学生が加わり、和やかな神輿にもなりました。



マネジメント工学科の御神輿

学生の表彰

学生の表彰に関しては、学部生の大園君、佐藤君が経営情報学会2017年度秋季全国研究発表大会にて、学生優秀発表賞を昨年の3月に続いて、連続受賞をしました。そして猪野君が2017年12月に日本人間工学会関東支部第23回卒業研究発表会にて、発表賞を受賞しました。また2017年自動車技術会関東支部の発表では磯崎君、向井君が優秀発表、向井君が優秀論文のダブル受賞をしました。そして春日部市かすかべビジネスプランコンテストにて、Entre-to-Be受講生の浦井君と林君が特別賞を受賞しました。



経営情報学会の学生優秀発表賞(大園君、佐藤君)

学 科・系 ニ ュ ー ス

数 理 情 報 工 学 科

国際シリアスゲームジャムで4年生が銀賞を受賞しました

2017年10月に中国・吉林省・長春の吉林动画学院で国際シリアスゲームジャムが開催され、数理情報工学科からは4年生の学生2名と教員1名が参加しました。

参加者はアジア4か国(中国、韓国、シンガポール、日本)の7大学から集まった55人の大学生。各チーム3カ国の学生を含むよう10チームを編成し、48時間でシリアスゲームを10本制作しました。与えられたテーマは「Games for Health -10歳以下または65歳以上-」、中国でもシリアスゲームに対する関心が急速に高まっている様子が伺えました。

情報工学コース4年の新井君が編成したチーム Whale は中国人3人、韓国人2人、日本人1人から編成され、二人で協調してプレイするシリアスゲーム WeTap を開発し、優秀賞(銀賞)を受賞しました!



新井恒陽君(中央白のトレーナー)

3年生の伏見君は各国で活躍しています



番組出演者の皆さん、右端が伏見有史君

数理情報システムコース3年生の伏見有史君は片手ルービックキューブの2011年度世界チャンピオンで、2017年7月にはパリで開催された世界大会に出場。2017年9月には中国国営放送 CCTV1 の番組「The Challenge Impossible」収録のため中国・北京を訪れる等、世界をフィールドとして活躍しています。

学 科・系 ニ ュ ー ス

創 生 デ ザ イ ン 学 科

第10回アジア照明会議で研究奨励賞を受賞

2017年8月17日から18日までの2日間、「アジアにおける人間のための照明」をテーマに、2017年度で第10回を迎えた記念大会である「アジア照明会議(ALC)」が、中国にある同済大学で開催されました。ALCは照明科学技術と照明デザインに関するアカデミックな国際会議で、海外11諸国から総数207件の論文発表が行われました。創生デザイン学科からは、山家哲雄専任講師の指導の下、2年生から4年生までの学生9名(松尾賢弥、西田慎太郎、郡司慎平、櫻井みなみ、小池美咲、岩淵美紀、相樂日向子、吉川綾乃、小木曾あずさ)が計6件の発表を行い、「研究奨励賞(照明デザイン部門)」を受賞致しました。



受賞風景

Maker Faire Tokyo 2017 に出展

お台場にある東京ビッグサイトで2017年8月5日から6日にかけて開催された「Maker Faire Tokyo 2017 (MFT)」に創生デザイン学科の学生6名(細谷信介、大竹真菜、高橋美咲、竹平幸矢、三井進平、羽田奈々子)で構成されるグループが出展しました。

いわゆる「メイカームーブメント」の火付け役となったMFTですが、すでに10年近い歴史を持つMFTに本学科からの出展はこれが初めてです。「ひかりうむ」と名付けられた出展作品は、電子部品をつかってつくる不思議な生命体のような生き物とそのジオラマを、ちいさなガラスのボトルの中につくるというワークショップでした。国際色豊かなイベントのため外国語を話す来場者に英語で応対する場面もあり、学生にとっては大学の枠を超えた学習の場となったようです。



ワークショップ風景

環 境 安 全 工 学 科

研究活動、国家資格取得、学生生活がますます活発化

平成29年11月に富山市で開催された第55回燃焼シンポジウムにて、大学院機械工学専攻2年の秋濱研究室所属の由井寛久君(環境安全工学科平成28年3月卒)がベストプレゼンテーション賞を受賞しました。

卒業研究から継続的に取り組んでいる「詳細反応モデルおよび簡略化反応モデルによるすす粒子生成の比較」の研究結果が評価されました。



ベストプレゼンテーション賞を受賞した由井君

国家資格の取得にも意欲的です。

2級土木施工管理技術検定の学科試験では、保坂研究室所属の阿部公洋君、中澤真史君、藤田祐也君、古屋実希也君、八城琢磨君の5名が合格しました。授業のみでなく研究室等で、学生相互による勉強会に取り組んだ結果が、素晴らしい成果となりました。

学内行事では11月の桜泉祭にて、学科の神輿が2年連続優勝を遂げました。古川先生の陣頭指揮のもと、4年生を中心とした神輿幹事メンバーが連日、バージョンアップ作業に取り組み、煌びやかな神輿がお目見えしました。

教員も研究や成果の普及に努めています。

今村准教授は、参画する研究プロジェクトに関連して、超小型衛星「EGG」が国際宇宙ステーションから大気圏再突入の飛行実験に成功したことを受け、JAXA プレゼンテーションルームにて6月に記者会見を行いました。また、五十畑教授は、9月のNHK BS プレミアム「浮世絵ツアー 富士山 名所めぐり」や、10月にNHK ラジオ第2放送「私の日本語辞典(毎週土曜日放送)」にて4週にわたり「名前から読み解く日本の橋」とのテーマで話題提供を行うなど、橋梁の専門的知識を一般の方々に広める活動に熱心に取り組んでいます。



教 養 ・ 基 礎 科 学 系

日経産業新聞で研究成果が紹介されました

朝本紘充専任講師・南澤宏明教授の研究グループが行っているアルツハイマー病の原因物質であるたんぱく質(アミロイドベータ)の分離検出法に関する研究成果が日経産業新聞(平成29年10月16日(月)付け)で紹介されました。これまでアミロイドベータの凝集体の形状を保持したまま分離し、解析するということが難しく、研究が進んでいませんでした。研究グループでは、「ポリテトラフルオロエチレン(PTFE)」という疎水性をもつ繊維でできたチューブと、蛍光色素を利用することでアミロイドベータの凝集体を定量的に測定する新たな手法を開発しました。

アルツハイマー病の仕組みの解明や新たな診断法の開発につながる事が期待されます。



朝本専任講師(左)と南澤教授(右)

アウトリーチ活動に取り組んでいます

10月に「SEISAN サイエンスカフェ ～偶然の中に潜む法則を探る～」(小林奈央樹 准教授)が秋の公開セミナーの一つとして行われました。このセミナーは、お茶やコーヒー、お菓子を片手にリラックスした雰囲気、本学で展開されている研究やアクティブラーニング型授業を体験していただく今年度新たに企画したものです。

セミナー当日は台風の影響によるあいにくの雨でしたが、幅広い年齢層の参加者が実際にサイコロを振りながら偶然の中に潜む法則性を肌で感じていました。



講演する小林准教授

日本大学生産工学部では、「地域社会へ開かれた大学・学部への飛躍の一環」として、アウトリーチ活動に力を入れております。教養・基礎科学系でもこの生産工学部の地域貢献に協力をしております。

2017年度後期アウトリーチ活動

- 8月 第33回めいど・いん・ふなばし(スクエア21、大熊康典教授、山崎紘史助手) 夏休みサイエンススクエア(国立科学博物館、山川一三男准教授、森健太郎助手)
- 10月 SEISAN サイエンスカフェ(本学部公開セミナー、小林奈央樹准教授)
- 11月 夢化学21～理科教室への招待～(本学部実科校舎、化学担当教員) 実験・工作教室 親子で実験しよう(千葉県立現代産業科学博物館、山川一三男准教授) 出張模擬授業「重力波とその観測について」(実効高等学校、姫本宣朗准教授)

「ものづくり」の核心にある協働と感動。 生産工学部に誇りをもって、社会の期待に 応えてほしい

生産工学部は、学生が中心のキャンパスを目指し、教職員はもちろんのこと多くの方たちが様々な形で学生をバックアップしています。中でも一段と心強いサポートをしてくださる卒業生の方々を紹介するのがこのコーナーです。今回は、国内外の社会インフラ関連事業にて建設コンサルタントを担う（株）エイト日本技術開発の東京支社支社長の稲垣喜弘さん、東京支社国土インフラ部部長の高橋直哉さん、そして2016年に同社に入社した家久冬萌さんにご登場いただき、抱負や生産工学部の学生へアドバイスを語っていただきました。



左から、東京支社支社長 稲垣 喜弘さん、家久 冬萌さん、東京支社国土インフラ部部長 高橋 直哉さん

■（株）エイト日本技術開発とは？

稲垣 「62年前の創業当時から『建設コンサルタント』として、道路、河川、港湾、空港、上下水道、廃棄物処理など幅広いインフラの調査・計画・設計業務を担っている会社です。各都道府県に事業所がありまして、行政や公益企業から発注を受け、それ以外にも企画から事業のマネージメント全般を担当します。」

高橋 「インフラというと、多くの方は工事現場を想像されるかもしれませんが、行政と建設コンサルタント、そして施工会社の三者が協力し合っているんですね。例えば橋の場合、橋を作ると決めるのは行政で、これを具体的な企画立案に落とし込み、設計するのが建設コンサルタント、この設計図をもとに工事をするのが施工会社の仕事というわけです。」

稲垣 「国内だけでなく昔から海外事業にも力を入れており、ODA(政府開発援助)をJICA(国際協力機構)業務等で発展途上国の道路や水関係の開発支援も行っています。」

■国際開発事業部に、初の新卒採用となったのが家久さんとお聞きしています。どのようにして入社に至ったのでしょうか？

家久 「子供の頃から海外の仕事をしたいと思っていましたが進路を考える中で、特に途上国でのインフラ開発の仕事に興味を持ったので生産工学部の土木工学科に進学しました。大学ではコンサルタントが一番自分のやりたい職種だと絞れてはいましたが、やっぱり決め手となったのは『生産実習』でしたね。実習の1か月で建設コンサルタントがどんなお仕事か現場を見せていただいて、ますますこのお仕事に就きたいと思いました。」

高橋 「実習時に驚いたのは彼女の積極性ですね。私は、家久さんが実習したところとは別の部署でしたが、インターンシップにきていた学生さんの終了時に、お祝いを兼ねて送り出そうと飲み会を企画しました。するとなぜか家久さんが登場したのです（笑）。」

家久 「前もってご挨拶したらと他の方にお誘

いを受けていたんですよ！（笑）でも確かに、折角の機会だったので、なるべく多くの先輩にお話を聞きたいと、ありとあらゆる会に顔を出していました。」

稲垣 「少し難しい話にはなりますが、国際開発はJICAといった組織が技術者の要件を定めていまして、ある程度のキャリアがないと業務に携われず、報酬もあります。しかし、これでは新人が育たない。そこで当社として初めて国際開発事業部で新卒採用に踏み切ったんです。つまり会社が独自に予算を充てて人材育成をしようということですね。家久さんは、実習時にこの積極的な性格が評判で、本人も海外の仕事をしたと話していました。会社の新しい試みを担ってもらう人材としては適任だったのではないかと思います。」

■生産実習の話題が上がりましたが、その他に学生時代の思い出はありますか？

高橋 「構造力学の授業がしんどかったです

稲垣喜弘（いながき・よしひろ）
（株）エイト日本技術開発 執行役員東京支社長。
1976年日大生産工学部土木工学科卒。
1977年日本技術開発（株）（現エイト日本技術開発）入社後、地質部課長、環境防災技術センター副センター長兼環境部長、リサーチ・エンジニアリング事業部副事業部長、執行役員環境・防災・保全事業部事業部長、執行役員中部支社長を経て2013年現職へ。趣味は、環境保全活動と陶芸。



ねえ（笑）。授業が始まってから90分、先生がダーッと黒板に概念や公式を書き続け、それをひたすらノートに写し続けるのですが、そのスピードが速いこと…ついていくのに必死でした。」

家久 「その授業、高橋さんの頃と先生は変わっていると思いますが、私も受けたことがあります！（笑）授業終わる時にノートを提出してチェックもらわないと単位もらえないんですね。」

稲垣 「きっと、やるべきことはすぐにやること、または期日はしっかり守ることといった素養を育ませる意図もあったんでしょう。」

高橋 「そうですね。授業で授業以外のことを学んだり、先生とのコミュニケーションが密接だったり、生産工学部の学風ってそういうところにあるのではないかと思います。」

これは卒業してみてもはじめてわかったことですが、学業に専念してきた他大学出身者と、学内で総合的に学んできた生産工学部出身者としては明らかに差が出ます。その分、社会から求められる期待も強い。」

稲垣 「特に卒論は大切ですね。先生とコミュニケーションをしっかりとって、場合によっては社会に出て話を聞いて、自分がやりたいと思った研究を成し遂げるチャンスです。実はこれが『ものづくり』の核心なんですね。発注者や技術者、現場の人々など、多くの人とコミュニケーションを取りながら、既存の技術を組み合わせ、経済性や周辺環境とのマッチングといった様々な観点から問題解決のアプローチを追求する末に『もの』が完成します。生産工学部が『ものづくり』を俯瞰して経営学の視点から工学を考える教育を行なっている日本で唯一の学部と呼ばれるゆえんはここにあるでしょう。」

■家久さんは、入社してから2年が経とうとしています。『ものづくり』の世界はいかがですか？

家久 「国際関係を志望したのに英語が苦手で、最初で迷惑おかけしたこともあります（笑）先輩方、そして生産実習のおかげもあって迷い

もなく、とても楽しく仕事と向き合えています。特にガーナでの舗装施工の現場を見れたことは印象的でした。なるべく機械を使わずに人力で施工する技術を開発しているのですが、そのプロジェクトの中で試験的に施工した道路を見て、現地の人たちと一緒に喜びあったんです。『自分たちの力で作ったんだ』って。その場にいることができて幸せでした。今の目標は、何か一つでも〇〇といったら家久！と言われるような得意分野を持つことです。」

稲垣 「何か1つ得意な技術を持つことが大事で、キャリアアップと共に他分野にまで技術の幅を拡げていく逆T型の技術者が求められます。最近ではさらに技術の多様化で専門分野が多岐にわたる逆π（パイ）型というモデルもあります。とはいえまずは一つの専門分野をもつことから技術者としての道が開けていきます。」

■最後に、在学生へのアドバイスをお願いします。

家久 「私は、生産実習以外に、アルバイトで培った経験がとても多かったです。学生期間中は、できる限り多くの大人の方と話をし視野を広げてください。」

高橋 「あとは、英語ですかね？」一同（笑）

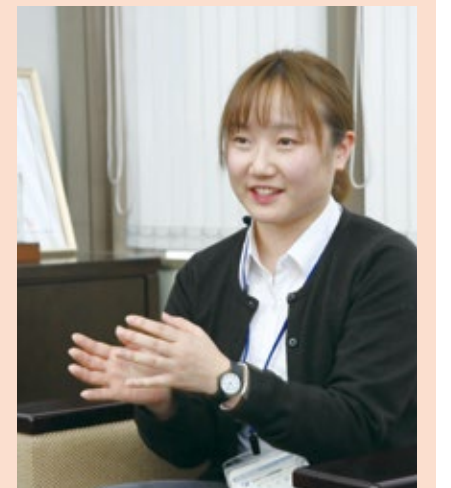
稲垣 「家久さんを国際開発事業部に新卒採用したことは、会社としても新しい試みですが、日本全体の『働き方改革』の実践でもあります。これからの日本は女性が活躍しなければ成り立ちません。ぜひ家久さんを見習って女子学生も積極的に様々なことに挑戦してほしいですし、家久さんには20年後30年後管理職として会社を支えてほしいと思っています。」

高橋 「キーワードは『楽しむこと』だと思います。どんな仕事にも言えることですが、我々建設コンサルタントにも苦労はあります。しかし、いざ設計した道路や橋が完成する時、この喜びは『ものづくり』でしか味わえない感動があり、それをバネに普段の仕事も『楽しく』行うことが出来るようになります。生産実習などを通じて早い段階で、自分にとって『楽しい』仕事は何かを見極めてください。」

高橋直哉（たかはし・なおや）
（株）エイト日本技術開発 東京支社国土インフラ部部長。
1987年日大生産工学部土木工学科卒。
1987年日本技術開発（株）（現エイト日本技術開発）入社後、土木本部構造部配属、東京支社道路交通部課長、東京支社道路交通部グループリーダー、東京支社道路交通部部長を経て、2014年現職へ。趣味はスポーツ観戦全般（特にオリンピック関連）、ゴルフ、音楽鑑賞。



家久冬萌（いえひさ・ともえ）
（株）エイト日本技術開発国際事業本部交通インフラ部技師。
2016年日大生産工学部土木工学科卒。
2016年4月（株）エイト日本技術開発入社後、国際事業本部配属（現職）。趣味は、夜行バスで日帰り旅行に行くこと。神社参拝、温泉。



取材後記

同じ会社の支社長と部長、そして新入社員の3名からお話を聞く貴重な時間でした。役職も異なり、特に家久さんにおいては歳も離れていますが、一つの質問に対して忌憚なく和気あいあいと話が展開し、時にはユニークな掛け合いに大笑いする場面も。日大生産工学部がいかに卒業生の心の拠り所となってその後の人生を支えているかを垣間見た取材となりました。

平成 29 年度 表彰学生

日本大学による表彰学生

学長賞

創生デザイン学科 4 年生

寫根 香菜子 (シマネ カナコ)

優等賞 (46 名)

機 械 工 学 科	4 年 生	大 野 寛 将	土 木 工 学 科	4 年 生	町 田 佳 崇	マネジメント工学科	4 年 生	橋 本 莉 沙
//	4 年 生	小 林 祐 人	建 築 工 学 科	4 年 生	遠 藤 直 人	数 理 情 報 工 学 科	4 年 生	石 山 悠 太
//	4 年 生	佐 竹 直 樹	//	4 年 生	栗 原 佳 里	//	4 年 生	大 村 奈 南 美
//	4 年 生	田 口 尚 輝	//	4 年 生	甲 山 冴 子	//	4 年 生	長 島 尚 登
//	4 年 生	仁 木 智 哉	//	4 年 生	高 野 真 実	//	4 年 生	服 部 倫 之
//	4 年 生	森 本 颯 樹	//	4 年 生	長 谷 川 岳 暉	//	4 年 生	松 熊 克 典
電 気 電 子 工 学 科	4 年 生	池 田 隼 輝	//	4 年 生	吉 田 源	環 境 安 全 工 学 科	4 年 生	鈴 木 萌 子
//	4 年 生	小 倉 佑 斗	応 用 分 子 化 学 科	4 年 生	小 俣 友 信	//	4 年 生	中 澤 友 宏
//	4 年 生	北 岡 徳 大	//	4 年 生	塩 沢 周 作	//	4 年 生	村 上 詩 音
//	4 年 生	小 島 正 瑚	//	4 年 生	眞 水 健 嗣	//	4 年 生	森 岡 巧 実
//	4 年 生	小 林 紀 輝	//	4 年 生	祇 樹 勇	創 生 デ ザ イ ン 学 科	4 年 生	浅 見 遥 香
土 木 工 学 科	4 年 生	梅 村 裕 哉	//	4 年 生	濱 田 昌 崇	//	4 年 生	遠 藤 陽 希
//	4 年 生	神 村 康 輝	マ ネ ジ メ ン ト 工 学 科	4 年 生	石 田 一 貴	//	4 年 生	齊 藤 友 里
//	4 年 生	塚 原 滉 介	//	4 年 生	井 上 大 成	//	4 年 生	鈴 木 陽 子
//	4 年 生	仁 田 優 季	//	4 年 生	佐 藤 優 太			
//	4 年 生	野 口 万 里 奈	//	4 年 生	宿 岡 愛			

生産工学部による表彰学生

学部長賞・研究科長賞 (9 名)

善行部門 (1 名)

建築工学専攻 M2 大坊 岳央

2014 年より習志野市消防団に入団し、日常的な消防活動や地域の安心・安全に寄与し、また地域防災活動に貢献。習志野市長賞及び千葉県消防協会より精勤賞を受賞。

学術・文化部門 (2 名)

機械工学専攻 M2 小田嶋 舞

一般社団法人日本鉄道技術協会（鉄道サイバネティックス協議会）では、前年度 1 年間主要な学会等（J-RAIL、電気学会、機械学会、OR 学会等）において発表した鉄道関係の特に優秀な論文として、「Track geometry estimation of a conventional railway from car-body acceleration measurement（車体振動加速度を用いた軌道不整量の推定）」が平成 29 年 8 月 24 日に開催された選考委員会において、学生優秀論文優秀賞（全表彰件数 4 件）を受賞。

数理情報工学専攻 M2 渡辺 開人

The 7th Thai Society of Mechanical Engineers International Conference of Mechanical Engineering において、11 分野のセッションの中からそれぞれ最優秀論文賞が選ばれる。本論文は Biomechanics and Bioengineering 部門の Best Paper Award（最優秀論文賞）を受賞。（総論文数 253 編 11 分野）

体育部門 (6 名)

柔道部 (5 名)

土木工学科 4 年生 後藤 瑠希也

平成 27 年 6 月 28 日に講道館で行われた第 56 回全日本理工科学生柔道優勝大会個人戦武段の部において準優勝。

土木工学科 4 年生 田村 翔太

平成 27 年 6 月 28 日に講道館で行われた第 56 回全日本理工科学生柔道優勝大会団体戦において優勝。

土木工学科 4 年生 福井 一貴

平成 27 年 6 月 28 日に講道館で行われた第 56 回全日本理工科学生柔道優勝大会団体戦において優勝。

数理情報工学科 4 年生 本間 和真

平成 27 年 6 月 28 日に講道館で行われた第 56 回全日本理工科学生柔道優勝大会団体戦において優勝。

環境安全工学科 4 年生 石橋 勇志

平成 29 年 6 月 25 日に講道館で行われた第 58 回全日本理工科学生柔道優勝大会個人戦初段の部において優勝。

ゴルフ部 (1 名)

機械工学科 4 年生 北島 光将

平成 28 年 2 月 29 日に大宮国際カントリークラブにて行われた 2016 年度関東理工系リーグゴルフ競技冬季大会で個人優勝。

精励賞 (29 名)

学術・文化部門 (18 名)

機械工学専攻 M2 片山 大輔

2017 年 11 月 14 日～16 日に京都大学百周年時計台記念館で開催された第 12 回日本磁気科学学会年会において、「異方性材料開発に向けた溶液中の磁性粒子の構造形成数値シミュレーション」のタイトルでポスター発表を行い学生ポスター賞を受賞。応募者数 28 件（ポスター発表 45 件中の該当学生数）、受賞者数 2 名。

土木工学専攻 M2 本田 美智子

2017 年 7 月に開催された第 52 回地盤工学研究発表会において、優秀論文発表者賞を受賞。講演数 1076 件（審査対象 35 歳以下 512 名）の中から 137 名受賞。

土木工学専攻 M2 山田 翔太

平成 29 年に開催された土木学会第 72 回年次学術講演会において、優秀講演者として受賞。講演数 543 件の中から 240 名受賞。

建築工学専攻 M2 加藤 慎也

●第 16 回卒業設計コンクールにおいて、埼玉賞を受賞。
各大学 3 名まで 31 名、最優秀賞 1 作品、優秀賞 2 作品、埼玉賞 1 作品、準埼玉賞 1 作品、特別審査員賞 3 作品、さいたま住宅検査センター賞 1 作品、さいたま住宅検査センター参加賞通宣、総合資格学院賞 1 作品、JIA 埼玉賞 2 作品、奨励賞適宜。

●日本建築学会主催の 2016 年度日本建築学会大会（九州）において、学術講演会環境工学部門若手優秀発表賞を受賞。発表者 81 名。受賞者 10 名に 1 名程度。

●2017 年度日本建築学会設計競技において、北陸支部入選。テーマ「地域の素材から立ち現れる建築」、応募数 312 作品。入選数 71 作品。

●第 1 回フェーズフリー住宅デザインコンペにおいて、入選。55 作品、各賞 4 点、入賞 13 点、計 17 点。

建築工学専攻 M2 宗士 淳

2017 年度日本建築学会技術部門設計競技「ユニバーサル社会を支える環境技術多彩な利用者の安全快適な環境デザインをめざして」において、共同制作者として受賞。
応募総数 19 作品、一次審査において二次審査対象 6 作品選出、二次審査において優秀賞を受賞（最優秀賞 1 作品、優秀賞 2 作品、佳作 3 作品）。

数理情報工学専攻 D3 島田 英里子

●平成 29 年 10 月 19 日に日本建築学会形態創生コンテスト 2017 において、優秀作品入選。応募総数 15 作品、入選作品 6 作品、最優秀作品 1 作品、優秀作品 2 作品。

●平成 28 年 10 月 27 日に日本建築学会形態創生コンテスト 2016 において、優秀作品入選。応募総数 15 作品、入選作品 6 作品、最優秀作品 1 作品、優秀作品 2 作品。

数理情報工学専攻 M2 深山 達也

2017 年 1 月 20 日につくば医工連携フォーラムにおいて、奨励賞を受賞。対象者 78 人（口頭 13 件、ポスター 65 件）、受賞者数 10 人程度。

応用分子化学専攻 M2 小柴 侑輔

平成 29 年 8 月 8 日～11 日に福岡大学で行われた「5th International Symposium & Exhibition on Aqua Science and Water Resources (ISASWR' 17)（第 5 回水科学ならびに水資源に関する国際会議）」において、「Dielectric properties for 2-propanol+water liquid mixtures at high temperature up to 473.2 K」の題目で研究発表（ポスター発表）し、優秀学生ポスター賞「ISASWR' 17 Poster Award (Student)」を受賞。応募者数 54 名、受賞者数学生 8 名、一般 6 名。

応用分子化学専攻 M2 徐 康健

2017 年 10 月 26 日から 27 日に岩手県宮古市民文化会館で開催された日本海学会第 4 回海水・生活・化学連携シンポジウムにおいて、「O3 ファインバブルを用いた水質浄化技術の開発ービスフェノール A の分解に対する気泡の微細化効果ー」の題目でポスター発表を行った結果、優秀ポスター賞を受賞。発表件数 27 件（口頭発表 3 件、ポスター発表 24 件）、優秀賞受賞 5 件。

応用分子化学専攻 M2 高木 美穂

2016 年 8 月 18 日、19 日にウエスタ川越にて開催された日本キチン・キトサン学会主催の第 30 回日本キチン・キトサン学会大会において、「架橋キトサンビーズによる Cr(VI) イオンの吸着の評価」の題目でポスター発表を行いポスター賞を獲得。ポスター発表 54 件、ポスター賞 3 件。

応用分子化学専攻 M2 土屋 侑子

2016 年 6 月 26 日から 10 日にかけて北海道登別グランドホテルで開催された日本海学会第 67 年会において、「CO₂ ファインバブルによる脱 K 苦汁からのドロマイトの製造」の題目で口頭およびポスター発表を行った結果、最優秀賞を受賞。発表件数 77 件（口頭発表 37 件、ポスター発表 40 件）、最優秀賞受賞 2 件。

マネジメント工学専攻 M2 磯崎 和豊

（公社）自動車技術会関東支部 2016 年度学術研究講演会において、ベスト・プレゼンテーション賞（論文名「危険予知タスクでの内発的動機づけを向上させる言語的報酬の基礎的検討」）を受賞。対象発表数 109 件、受賞者数約 10 件。

機械工学科 4 年生 高仲 隆太郎

2017 年度日本機械学会交通・物流部門主催「第 26 回 交通・物流部門大会 (TRANSLOG2017)」において、講演 No.2015「ウェアラブル NIRS を用いた鉄道運転士の脳活動計測システムの開発」として発表しポスターセッション優秀発表表彰として選考。ポスターセッション発表件数 68 件、6 名選出。

マネジメント工学科 4 年生 大菌 洗亮

●2017 年 3 月 9 日に経営情報学会 2017 年春季全国研究発表大会において、ポスター発表件数 16 件中、2 件選ばれる学生優秀発表賞を受賞（「研究開発能力が知識の外部ネットワーク形成に与える影響ー石油化学企業の特許と技術導入に関する実証研究ー」）。

●2017 年 9 月 21 日に経営情報学会 2017 年秋季全国研究発表大会において、ポスター発表件数 29 件中、5 件選ばれる学生優秀発表賞を受賞（「技術導入の限界効果とそのメカニズムー外部知識ネットワークと研究開発能力に関する実証研究ー」）。

マネジメント工学科 4 年生 佐藤 愛斗

●2017 年 3 月 9 日に経営情報学会 2017 年春季全国研究発表大会において、ポスター発表件数 16 件中、2 件選ばれる学生優秀発表賞を受賞（「研究開発能力が知識の外部ネットワーク形成に与える影響ー石油化学企業の特許と技術導入に関する実証研究ー」）。

●2017 年 9 月 21 日に経営情報学会 2017 年秋季全国研究発表大会において、ポスター発表件数 29 件中、5 件選ばれる学生優秀発表賞を受賞（「技術導入の限界効果とそのメカニズムー外部知識ネットワークと研究開発能力に関する実証研究ー」）。

創生デザイン学科 4 年生 遠藤 陽希

平成 29 年 10 月 19 日に日本建築学会形態創生コンテスト 2017 において、優秀作品入選。応募総数 15 作品、入選作品 6 作品、最優秀作品 1 作品、優秀作品 2 作品。

創生デザイン学科 4 年生 鈴木 友仁

平成 29 年 10 月 19 日に日本建築学会形態創生コンテスト 2017 において、優秀作品入選。応募総数 15 作品、入選作品 6 作品、最優秀作品 1 作品、優秀作品 2 作品。

創生デザイン学科 4 年生 鈴木 優大

平成 29 年 10 月 19 日に日本建築学会形態創生コンテスト 2017 において、優秀作品入選。応募総数 15 作品、入選作品 6 作品、最優秀作品 1 作品、優秀作品 2 作品。

体育部門 (9 名)

ソフトテニス部 (2 名)

土木工学科 4 年生 鈴木 達也

平成 28 年度日本大学体育大会ソフトテニス競技会団体優勝。

建築工学科 4 年生 山田 莉沙

平成 28 年度日本大学体育大会ソフトテニス競技会団体優勝。

櫻ラグビー部 (7 名)

建築工学科 4 年生 小菅 和也

平成 28 年度春季に開催された関東ラグビーフットボール協会主催関東理工系リーグ二部において優勝。

応用分子化学科 4 年生 岩下 勇介

平成 28 年度春季に開催された関東ラグビーフットボール協会主催関東理工系リーグ二部において優勝。

数理情報工学科 4 年生 中里 優太郎

平成 28 年度春季に開催された関東ラグビーフットボール協会主催関東理工系リーグ二部において優勝。

数理情報工学科 4 年生 浜名 瑞樹

平成 28 年度春季に開催された関東ラグビーフットボール協会主催関東理工系リーグ二部において優勝。

環境安全工学科 4 年生 村山 竜一

平成 28 年度春季に開催された関東ラグビーフットボール協会主催関東理工系リーグ二部において優勝。

創生デザイン学科 4 年生 岡安 優

平成 28 年度春季に開催された関東ラグビーフットボール協会主催関東理工系リーグ二部において優勝。

創生デザイン学科 4 年生 酒井 優輔

平成 28 年度春季に開催された関東ラグビーフットボール協会主催関東理工系リーグ二部において優勝。

功労部門 (1 名)

桜泉祭

マネジメント工学科 4 年生 猪野 優樹

平成 28 年度第 25 回桜泉祭実行委員会委員長



風力発電コンペ

第10回風力発電コンペ WINCOM2017を、平成29年11月5日(日)に35チームの応募のもと開催致しました。本学部の学部生・院生も含めた参加者の皆様どうもありがとうございました。

今回受賞されたチームは以下の通りです(敬称略)。

【発電量部門】

高校の部

最優秀賞 システム名称「Brand New Wind 2017 Type Twin」

足利工業大学附属高等学校
指導教員：西牧 宏之／代表者：菊野 拓也

優秀賞 システム名称「SHIMOFUSA Wind-power 2017 type H」

千葉県立下総高等学校
指導教員：中西 浩明／代表者：金親 京吾

優秀賞 システム名称「久喜風車1号」

埼玉県立久喜工業高等学校
指導教員：宮崎 達夫／代表者：鈴木 宏重

アイデア賞 システム名称「回れ！！プロペらくん！！」

山形県立山形工業高等学校
指導教員：吉田 幸宏／代表者：深瀬 実紀

アイデア賞 システム名称「ばけ丸君」

順天高等学校
指導教員：肥田 規幸／代表者：鈴木 隆玄

デザイン賞 システム名称「観光の学び 風のまちⅡ」

千葉県立館山総合高等学校
指導教員：内記 修生 北条 一久／代表者：須田 裕貴

デザイン賞 システム名称「最上の流れ」

山形県立村山産業高等学校
指導教員：山科 尚史／代表者：菅野 拓真

WINCOM2017



日本風力エネルギー学会特別賞 システム名称「Brand New Wind 2017 Type Single」

足利工業大学附属高等学校
指導教員：西牧 宏之／代表者：山藤 冬我

オープン参加

優秀賞 システム名称「Schwert-2017」

日本大学生産工学部機械工学科／代表者：大鋸谷 悠太

日本大学生産工学部校友会賞 システム名称「マワレ・ファイブ・2017」

北見 弘

【WINCOM 10周年記念賞】

山形県立山形工業高等学校(10回連続出場)

足利工業大学附属高等学校(9回出場)

北見 弘(6回出場中5回受賞)

※風力発電コンペは、生産工学部校友会から支援金を受けております。

2018年度キャンパスガイド 表紙デザインコンペが 開催されました。

2018年度版生産工学部キャンパスガイド表紙デザインの募集が、平成29年10月16日(月)から行われました。

応募作品は11月2日(木)から11月5日(日)まで39号館1階ギャラリーに展示され、11月5日(日)に公開審査が行われました。応募作品22作品の中から、最優秀賞に創生デザイン学科3年の杉浦友崇さんの作品が選出され、2018年度のキャンパスガイドの表紙として採用されました。また、下記の皆さんが各賞を受賞されました。

受賞名	作品名	製作者(代表者)	所属学科(専攻)・学年
最優秀賞	生産工キャンパスマップ	杉浦 友崇	創生デザイン学科3年
優秀賞	飛ぶ桜吹雪	日野 一貴	建築工学専攻2年
〃	覗き見る私たちの未来	外山 純輝	建築工学科4年
〃	共同製作者	伊藤 優太	建築工学専攻2年
佳作	キャンパスライフ!	米山 輝	創生デザイン学科3年
〃	自分で進む、この道を通して	佐藤 耕介	建築工学科4年
〃	掌	小林 亮太	創生デザイン学科3年
〃	手で繰る未来	山下 シロ	建築工学専攻1年
〃	羅針盤	涌井 優	電気電子工学科3年



受賞名	作品名	製作者	所属学科(専攻)・学年
校友会賞	飛翔	鈴木 風太	創生デザイン学科3年
〃	生産工 1500 景	吉水 寛樹	創生デザイン学科3年
〃	大学は将来の基盤。	横川 誠人	創生デザイン学科4年
〃	ものづくりに未来を	望月 雄馬	建築工学専攻1年
〃	視ること	井手 優汰	建築工学専攻1年
〃	「学ぶ」の可視化	近藤 啓佑	建築工学科4年
〃	「ひろがる」世界	櫻井 真勇	創生デザイン学科3年
〃	生産工学部らしさ	福田 奎也	建築工学専攻1年
〃	羽ばたく十の翼	筒井 祥平	建築工学専攻1年
〃	創造	望月 幸一	創生デザイン学科3年
〃	私達が創る未来	鈴木 友理	創生デザイン学科3年
〃	Go to the Future, Go to the Seisan.		
〃	古田 莉香子	建築工学専攻2年	
〃	視野の拡張がつなく未来	角田 優人	建築工学科4年
〃	君は、キャンパスを何色に染める? 黒江 太樹	建築工学科4年	

※キャンパスガイド表紙デザインコンペは、生産工学部校友会から支援金を受けております。

平成 30年度行事予定

行 事		2～4 年次：津田沼校舎	1 年次：実初校舎	大学院	備 考
開 講 式		4月2日(月)〔津田沼校舎〕		4月2日(月)	
前 期 ガ イ ダ ン ス		4月2日(月)～7日(土) ※学科・学年によって、日程が 異なります。	4月2日(月)～7日(土)	4月2日(月)	
入 学 式			4月8日(日)		日本武道館
定 期 健 康 診 断		4月9日(月)～4月12日(木)			
オ リ エ ン テ ー シ ョ ン			4月3日(火)・4日(水)〔環境・創生〕 4月4日(水)・5日(木)〔機械・土木・建築・MA・数物〕 4月21日(土)・22日(日)〔電気・応化〕		
父 母 懇 談 会 (春 季)		4月14日(土)			
大 学 院 説 明 会 (春 季)		4月14日(土)			
休 校 日		5月1日(火)、5月2日(水)			
ス ポ ー ツ 大 会		5月19日(土)			
女子中高生のためのキャンパスカフェ		6月24日(日)			
大学院入学試験(第1期)・学内推薦等				7月7日(土)	
オ ー プ ン キ ャ ン バ ス		7月15日(日)、8月4日(土)、8月5日(日)			
補 講		土曜日適宜実施			スポーツ大会等 他の行事のある日を除く
夏 季 休 業		8月6日(月)～9月11日(火)※応用分子化学科1・2・3年は9/10(月)まで		8月6日(月)～9月11日(火)	
前 期 追 試 験		9月6日(木)			
A O 入 学 試 験		9月8日(土)			
後 期 ガ イ ダ ン ス		9月12日(水)※応用分子化学科1・2・3年は9/11(火)、12(水)		9月12日(水)	
父母懇談会(秋季)保護者向け就職説明会		9月22日(土) 津田沼キャンパス			
大 学 院 説 明 会 (秋 季)		9月22日(土)			10月13日(土) 地方別実施
卒業式・修了式・学位記伝達式(9月)		9月27日(木)		9月27日(木)	
創 立 記 念 日 の 休 日		10月4日(木)			休 校
編 入 学 試 験 (2 年 次 ・ 3 年 次)		10月6日(土)			
外国人留学生入学試験(第1期)		10月6日(土)		10月6日(土)	
帰 国 生 入 学 試 験		10月6日(土)			
校 友 子 女 入 学 試 験		10月6日(土)			
学 部 祭 (桜 泉 祭)		11月3日(土)、11月4日(日)			11/2(金)準備日・ 11/5(月)片付日
オ ー プ ン ラ ボ		11月4日(日)			
風力発電コンペ(WINCOM2018)		11月4日(日)			
日本大学推薦入試(付属高等学校等)		11月11日(日)			
博 士 論 文 提 出 期 日				11月16日(金)	
指 定 校 制 推 薦 入 学 試 験		11月17日(土)			
提 携 校 推 薦 入 学 試 験		11月17日(土)			
保健体育審議会推薦入学試験		11月17日(土)			
トップアスリート推薦入学試験		11月17日(土)			
一 般 入 試 対 策 講 座		11月25日(日)			
学 術 講 演 会		12月1日(土)			
公 募 制 推 薦 入 学 試 験		12月8日(土)			
事業継承者等推薦入学試験		12月8日(土)			
大学院外国人留学生入学試験(第2期)				12月8日(土)	
冬 季 休 業		12月25日(火)～1月9日(水)			
補 講		土曜日適宜実施			入学試験、学部祭、学術講演会等 他の行事のある日を除く
大 学 入 試 セ ン タ ー 試 験		1月19日(土)、20日(日)			
修士論文概要(初稿)提出期日				1月18日(金)	
一 般 入 学 試 験	N 1 方 式	2月1日(金)			
	A 1 方 式	2月2日(土)			
	A 2 方 式	2月9日(土)			
	A 3 方 式	2月19日(火)			
後 期 追 試 験		2月13日(水)、14日(木)			
修 士 論 文 提 出 期 日				2月20日(水)	
転 科 試 験 (2 年 次)		2月27日(水)			
外国人留学生入学試験(第2期)		3月2日(土)			
大学院外国人留学生入学試験(第3期)				3月2日(土)	
大 学 院 入 学 試 験 (第 2 期)				3月2日(土)	
卒業式・修了式・学位記伝達式		3月25日(月)		3月25日(月)	日本武道館

個人情報の取扱い告知文

入学手続時及び在学中に収集する学生本人及び保証人の氏名、住所、生年月日及びその他の個人情報は、学籍・成績管理、教育、学生生活支援、学費の案内、図書館利用、就職支援等及びこれらの業務に付随する学生及び保証人への連絡・通知・掲示等、本大学の教育事業に必要な範囲で利用します。

また、これらの業務の一部を業者に委託する場合があります。この場合、当該業務の委託を受けた業者は、上記利用目的の達成に必要な範囲を超えて個人情報を利用することはありません。

なお、本大学では、学生への教育・指導をより適切に行うため、保証人に対して学生の学業成績及び出席状況等の開示並びに履修状況等についての相談を行う場合があります。

(問合せ先) 生産工学部教務課・学生課

鳥人間コンテスト 2017 で優勝した機体の展示作業が行われました。



2017年7月に琵琶湖で開催された鳥人間コンテスト2017で、本学部津田沼航空研究会が製作した Squalo (機体名) が、滑空機部門において、400m を大きく超える学生新記録で初優勝しました。13 回目の挑戦での快挙でした。これを記念し機体を展示するため、研究会メンバーによる機体の展示作業を行いました。

展示場所は 2013 年に同大会で滑空部門 5 位の成績をおさめた Integral (機体名) が展示してあった未来工房で、業者を交えての機体を入れ替える作業でした。

ちなみに、津田沼航空研究会の会員数は 27 名、内女子 6 名が所属しています。機械工学科が推奨のサークルですが学部に関係なく入会できます。今回の Squalo 機体ペインティングは創生デザイン学科の女子学生によるものです。また、展示機体は、大会で着水時損傷した部分を作り直すなどして修復しています。

スプリング

SPRING No.110

(日本大学生産工学部だより)

平成 30 年 3 月 22 日発行

編集・発行 日本大学生産工学部 広報委員会

本誌に関する照会その他は下記をお願いします。

〒275-8575 千葉県習志野市泉町 1-2-1 日本大学生産工学部 庶務課

電話 047-474-2201 FAX 047-479-2432

E-mail : cit.info.shomu@nihon-u.ac.jp

http://www.cit.nihon-u.ac.jp/

SPRING

■学部長メッセージ

■特集 1 日本大学 学生 FD CHAmmit 2017 活動紹介

■特集 2 リサーチセンター、リサーチグループ施設・活動紹介

■2017 年の就職状況と 2018 年の展望

■就職活動体験記

■学科・系ニュース

■連載／卒業生インタビュー

(株)エイト日本技術開発 執行役員東京支社長 稲垣喜弘氏

部長 高橋直哉氏／技師 家久冬萌さん

■平成 29 年度表彰学生

■CAMPUS NEWS

■平成 30 年度行事予定



No.
110

日本大学生産工学部

2018 年 3 月 22 日発行

